

胆振総合振興局 三好 岳志
後志森林管理署 妻鳥 洋年
中澤 慧人

事業の背景・目的

エゾシカ捕獲困難地対策事業は今年度から始まった取り組みです。

従来のエゾシカ対策としては、市町村単位で有害鳥獣駆除を行うことが主な取り組みでした。

しかし、エゾシカは市町村の隣接エリアを往来しているため、他市町村では捕獲ができません。

また、同一市町村のエリアであっても銃猟禁止区域としている場合は、同じく捕獲ができません。

そのため、振興局が発注者となり事業区域を広域化、複数の市町村にまたがる国有林で、銃猟禁止になっていた区域において事業を取り組むことになりました。

後志森林管理署の取り組み

登別市国有林において、令和3年度秋植えのクリーンラーチ(コンテナ苗)の芽をエゾシカに食べられる獣害が発生しました。

そこで伊達森林事務所(室蘭・登別・伊達地区)で過去5年間に植栽したカラマツ類について森林被害調査を行ったところ、15.28ha、3万本、71%の苗木がエゾシカによる食害を受けていることが分かりました。

国有林での獣害対策としてはモバイルカリング、囲いわな、職員によるくくりわなが考えられますが、全ての被害地に実行できない状況もあり、後志森林管理署として対策を検討していました。

事業の内容

【わな猟における技術・体制などの実証】

銃猟の実施が困難なエリアにおける効果的な捕獲推進のため、胆振総合振興局が発注者となり室蘭・登別・伊達地区において囲いわな及びくくりわなによるエゾシカの調査捕獲を実施し、最適な捕獲方法の実証を行います。

1. 囲いわなによる捕獲の実施

設置基数は1基を基本とし、わなへの効果的誘導や設置場所、構造の工夫などについて検討します。

ICTを用いた遠隔操作による捕獲を行うこととし、エゾシカの行動や集結状況を把握しながら、状況分析と効果的な捕獲方法を検討します。

2. くくりわなによる捕獲の実施

設置基数は40基を基本とし、わなへの効果的誘導や設置場所の工夫などについて検討します。

地域の課題

事業に関する調整会議の中で、地域から、捕獲したエゾシカの食肉利用への意見があげられました。

エゾシカの有効活用にあたっては、エゾシカ肉の安定的な供給が壁となることがあります。

本事業で効率的な捕獲方法を実証し、安定した捕獲数の確保につなげることで、有効活用に向けた地域の取り組みが加速すると考えます。

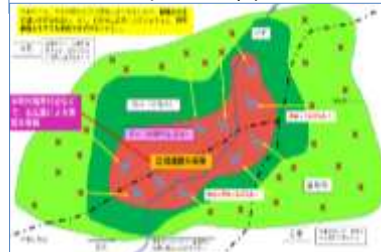
今後の展望

エゾシカは農・林業被害による地域の衰退をもたらし、被害対策のための捕獲に伴う処分費用の増大という地域にとってマイナスの存在となります。

一方で地域の資源として認識すると、食肉やペットフードなどへの有効活用による地域振興、所得向上につながるプラスの存在となるポテンシャルも持ち合わせています。

本事業が当該地域におけるエゾシカの資源としての有効活用と地域振興への一助となることを願っています。

エゾシカ捕獲困難地対策事業 イメージ図



登別国有林令和3年度秋植え箇所 エゾシカ(自動撮影カメラ)



クリーンラーチ(コンテナ苗) 芽の食害状況



室蘭・登別・伊達地区



囲い罠イメージ図

